

# 特別講演会「禅僧の行脚について」

## ユーモア交え行脚を伝える

花園大学国際禅学研究所

花園大学国際禅学研究所は15日、特別講演会「禅僧の行脚について」を開催し、唐宋代の禅宗研究の第一人者として知られる小川隆駒澤大学教授（同研究所顧問）が講師を務めた。会場の教堂は満員となり、聴講者は小川教授のユーモア溢れる解説に熱心に耳を傾けた。

小川教授は、「禅宗の行脚は、他の宗教とは違った意味を持つ」と説明し、禅宗の特徴の



一つである問答に着目。行脚の過程で行われた問

答を読み解き、禅宗の行脚の意義について述べた。

中国の仏教書『碧巖録』や禅宗史書『景德伝灯録』などから、修行僧が行脚の過程で老師と問答を行い、悟りへ到達したいくつかのエピソードを紹介。修行僧は、どこか具体的な場所へ到着して悟りを開くのではなく、「歩いていて自分自身」に目覚めて悟りを開いたと話した。小川教授は、「禅の行脚とは、地図に描かれた場所にとどり着く旅ではなく、「自分自身」にたどり着く旅」とまとめた。